「難治性の病気を抱える患者さんを支えるご家族に対する看護支援プログラム開発のためのインタビュー調査」への研究協力のお願い

国立看護大学校　看護基礎科学分野に在籍しております森下 純子と申します。

私は、大学病院の消化器外科やハイケアユニット、治験薬を扱う部署などで看護師として勤務しておりました。その後、がんに罹患した患者さんへの看護を深めたいと思い、大学院に進学し、がんに罹患した患者さんの体験や Quality of life、心理的ケアの探究に取り組みました。現在も、看護教育や研究者としてがん看護に携わっております。

沢山の患者さんやご家族のお話を伺う機会をいただく中で、我が国の重点課題としてあげられている難治性といわれるがんの患者さんを日々支えていらっしゃるご家族への支援が十分ではないことを痛感いたしました。

今回、難治性といわれるがん患者さんを支えていらっしゃるご家族に特化した看護支援プログラムの開発に向けて、インタビュー調査を実施したいと考えており、皆さまのご協力を賜りたくご連絡させていただきました。

以下、“研究の概要について”をお読みいただき、本研究にご興味を持ってくださった方には、文書で詳細をご説明させていただきます。そのうえで、参加をお決めいただいて構いません。そのほかにも、ご質問などがございましたら、下記までご連絡いただけますと幸いです。

お忙しいところ、大変恐縮ですが、何卒宜しくお願い申し上げます。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国立看護大学校　看護基礎科学　准教授　森下　純子

【連絡先】
平日 8:30～17:15
メールアドレス:morishitaj@adm.ncn.ac.jp
電話番号　042-495-2211(代表)　内線 5428

研究の概要について

【目的】

本研究は、難治性のがん患者さんの治療・療養過程を支えるご家族に対する看護支援プログラムの開発に向けて、ご家族の方々の体験を明らかにすることを目的としています。

本研究における家族の定義は、患者の治療や療養生活において主となってサポートや介護をしている者であり，患者との婚姻や血縁は問いません。

【研究に参加をお願いしたい方】

- **食道がん、肝がん、胆道がん、膵臓がん、肺がん（腺がん除く）、甲状腺未分化がん、トリプルネガティブ乳がん、肛門がん、卵巣がん、スキルス性胃がん**のいずれかの診断を受けた患者さんのご家族
- 上記の診断を受け、**3 年以内に手術や放射線療法、局所療法（ラジオ波焼灼療法や凍結療法、肝動脈化学側線療法、エタノール注入療法など）、がん薬物療法を受けたことがある患者さんの治療や療養生活において主で治療やサポートをしている方**
- 患者さんの病名や治療状況について理解していらっしゃる方
- 18 歳以上の方

＊患者さんのお子様で現在養育を受けていらっしゃる方、身体的・心理的なご病気の既往がありご負担がかかると考えられる方は、参加をお断りさせていただく場合がございます。

【研究方法】

必ず、文書を用いて研究についてご説明し、同意書にご署名をお願いしてから、以下を開始いたします。

1. 簡単な質問紙（年齢や家族構成など）への回答
2. インタビュー調査

日時： ご都合の良い日時をご相談させていただきます

場所： ご希望に沿って、対面、またはオンラインで行います

所要時間： 40～50 分程度を予定しています

お話いただきたい内容： 患者さんの病気や治療の経過、患者さんの介護やご自身の生活などに関する体験や思い

【費用について】

本研究に際し、ご負担いただく費用はございません。

謝礼として、お一人あたり 5000 円のクオカードをお渡しいたします。

ご不明な点がございましたら、遠慮なくご連絡ください。

ご協力のほど、宜しくお願いいたします。